



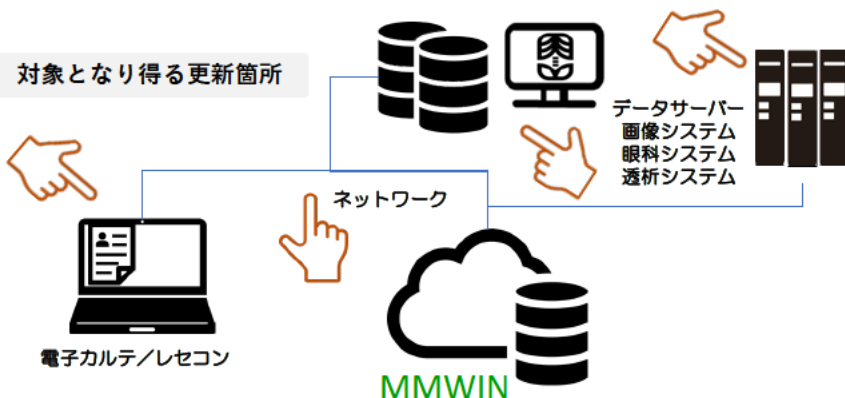
お知らせ

MMWIN事務局からのお知らせです

MMWINと連携している参加施設様のネットワークやシステム機器の更新または変更、停電等のご予定がございましたら、ご計画の段階でも構いませんので、事務局（office@mmwin.or.jp）までご連絡をお願いいたします。

★ネットワークやシステム機器の更新または変更

- 施設様のネットワーク構成の変更やシステム機器の更新に伴い、MMWINシステムでも設定変更等が必要となる場合があります。
- 更新や変更の際、正しい手続き（設定変更等）が行われなかった場合には、各種障害が発生する可能性が高く、その復旧作業のための費用につきましては施設様のご負担となることがあります。
- 一部の配線工事でもMMWINシステムに影響を及ぼす恐れがありますので、施設様もしくはシステムベンダーご担当者様より当事務局までご連絡下さい。



★停電の予定がある場合（法定点検や工事など）

- 施設様内で停電のご予定がある際、施設ご担当者様により事前にMMWIN機器の電源をお切りいただく必要があります。
- 適正な処理が行われなかった場合、停電終了後にMMWIN機器が故障する可能性があり、その修理費用は施設様のご負担となることがあります。
- 停電終了後、MMWIN機器の起動にあたり、システムのログイン情報等が必要となることがあります。

一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目15番19号

【事務局】

TEL : 022-395-6312 FAX : 022-395-6313

E-mail : office@mmwin.or.jp URL : http://mmwin.or.jp/

【サポートセンター】

TEL : 022-399-6880 E-mail : support@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、「@mmwin.or.jp」からのメールを受信できるように設定してください。
【MMWIN】、「みんなのみやぎネット」は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。
※本誌の取組内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。

MMWIN通信
最新号からバックナンバーまで
当協議会ホームページに掲載しております

©2022 MMWIN

全医療・介護・福祉分野、職種が想いをひとつに「オールみやぎ体制」でみやぎをつなぎます



エムエムウィン
MMWIN 通信
みんなのみやぎネット NEWS

2022
12.23
vol. 71

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

新規参加施設紹介

しおがま国分眼科

【塩釜・多賀城・七ヶ浜エリア】

2022年9月28日、多賀城市にしおがま国分眼科を開業され、MMWINおよび眼科連携にご加入いただきました。院長の國分太貴先生は、前職よりMMWINを活用していただいていたのですが、改めてご開業されてからの活用事例や、メリットについてお聞かせいただきました。

二次配布禁止

國分 太貴 院長

これまで東北大学病院で、MMWINを介しての他病院とデータ・カルテ情報を共有できるメリットは、十分体感しておりました。したがって、当院でも同じように運用できるよう検査機器・診療端末・MMWINが相互連携できるようアレンジしました。私が他院で長年診療してきた患者さんが、当院を受診された際に、検査データをそのまま引き継いで診療を継続していることを伝えたと、患者さんが「これからも引き続きよろしくお願いいたします。」と安心された表情で述べられたのが印象的でした。

二次配布禁止

また、他病院でフォローされていた患者さんが当院を初診された際に、MMWINを介して前医での担当医とのやり取りを把握できる点もメリットとして挙げられます。「患者さんがどのような性格で、何を心配して、何を求めているのか」という背景が分かりますので、初診から患者さんとの良好な関係が築きやすいことを体感しております。

さらに、当院と他病院で併診されている患者さんにおいては、例えば、他病院の次回受診日・予定処置内容・予定手術日がMMWIN上で把握できますので、当院の次回予約・検査内容をそれに合わせて段取りできます。患者さんが他院受診後に当院に電話予約する手間や、処置内容を伝える労力が軽減される点が喜ばれております。

このように、MMWINによる病診連携システムの構築は、診療内容の充実化だけでなく、患者さんとの信頼関係を円滑にする上でも役立っております。医療者・患者さんの双方にとってメリットのあるシステムであることを、開院間もないですが改めて実感しております。



事務局では、開業早々にシステムを活用いただけるよう、患者加入促進を開業日当日からサポートさせていただきました。院内にブーススタッフを派遣し、2週間のわずかな期間にもかかわらず、約170名の患者さんが加入されました。



MMWINサービスにおいて病診連携に大きく貢献しているネットワークの1つである眼科連携。2022年の10月より新たに2つの医療機関が参加し、県内全域へさらなる拡がりをみせています（右図）。

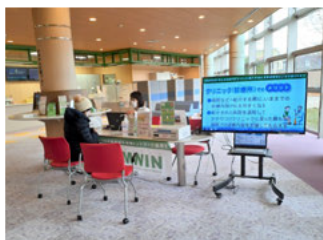


眼科連携ネットワークがさらに広がっています



眼科待合室のご案内

ブースのご案内



眼科医と事務局ブーススタッフが連携し、眼科を受診中の患者さんがよりスムーズにご加入いただけるための取り組みを積極的に展開しています。

例えば、眼科医や看護師からブースに誘導していただき、ブーススタッフが詳しく説明という流れにより加入率を向上させたり、加入申込書の投函場所を施設内に用意することで加入方法の選択肢を増やすという取り組みです。

参加施設の皆さまと事務局スタッフが知恵を出し合い、ネットワークの拡大と利用促進に努めています。眼科連携ネットワークだけではなく、他の施設間連携でもご支援可能です。どの医療機関とどのような情報の連携を行いたいといったご要望をいただけますと幸いです。

「個別公開機能」を使った転院調整事例の紹介

独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター

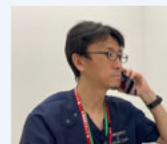
救急科医長 川副 友 先生
地域医療連携室 主任 小倉 美緒 様



仙台医療センター地域医療連携室では、MMWIN「個別公開機能」を使って、転院先への診療情報を電子的に提供する試みを2022年5月11日より始めています。その評価と今後の展開について、この運用をご提案された救急科医長 川副 友先生と連携室 主任 小倉様にお話を伺いました。

<川副先生のお話>

Q: 「個別公開機能」活用のきっかけを教えてください



川副 友 先生

A: 東北大学病院勤務時代の経験です。早期の連携が必要になる場合に、紙文書でのやり取りではどうしてもタイムラグがでてしまいます。画面を通じて患者情報を共有しながらリモートカンファレンスを行うようになれば迅速に無駄なく対応できます。効果として、紙に書き直す必要が無いので手間が省けることと、文字情報だけではなく画像を含めた

情報を提供でき、共有できる情報量が多いことです。

Q: その他の利用方法をお聞かせ下さい

A: 緊急事態で患者さんを急いで転院搬送しなくてはならない時に、検査画像をCD-ROMに書き込む時間が待てない時があります。そういう時にMMWIN「個別公開機能」を使って画像提供できれば非常に助かります。また、救急外来では多様な症例を受け入れる際に、患者さんの治療歴情報をご家族から聞き出したり、通院歴のある病院から紹介状を送ってもらったりするなどに大変な労力を使っています。もし患者さんがMMWINに加入されていたら、正確かつ迅速に情報を把握できる様になります。

Q: 課題等がございましたらお聞かせください

A: 必ずMMWINシステムに登録しなければならないという手順があります。

事務的な手続きは、基本的に平日の対応となります。夜間や休日救急時の対応方法の検討が必要です。また個々の症例において、患者本人及び代諾者からの同意が必要です。特に緊急時などは、オプトアウト方式による同意が可能となれば、より使いやすくなると思います。

<小倉様のお話>

Q: 地域医療連携室の評価をお聞かせ下さい

A: 当初、MMWINを利用するのはなかなかハードルが高いという印象がありました。個別公開機能の利用は、紐づけせずに情報共有できますし、操作はとても簡単でした。コロナ禍前ですと、患者さんの受入れに際し、転院先の先生と当院の医師とでカルテや患者さんを診て相談するなどできたのですが、今では行き来も難しくなり、MMWINのニーズはどんどん高まっていると思います。

また、三次救急である当院では重症の患者さんをより多く受け入れるために、ある程度症状が落ち着いた患者さんは、スムーズに転院先を調整する必要があります。その際にMMWINの個別公開機能を利用することにより、沢山の情報を迅速に共有できるため、スムーズな転院支援につながっていると思います。今後は、一般の転院調整にも広げて利用できるようになればと思います。

Q: ご要望があればお聞かせ下さい

A: 当院のADL情報とレポート類の自動アップロードができれば良いと思います。今はスキャンで読み込むような運用にしています。今後は、リハビリで連携する病院にも拡大出来たらもっともっと便利になり、私たちだけでなく連携施設側にも大変良いことと思います。